

2020 年度超高磁場 NMR（大阪大学蛋白質研究所） 共同利用研究課題募集要項

大阪大学蛋白質研究所では、超高磁場 NMR 装置（¹H 共鳴周波数 950MHz と 800MHz）の共同利用研究課題の募集を下記の通りに行います。

1. 超高磁場 NMR 装置の概要

本装置は、世界でも最高クラスの静磁場下で溶液 NMR 実験を行うものであり、これまでにない高いスペクトル分解能と感度を持っています。この特徴を利用して、蛋白質複合体など生体系分子を対象として構造解析を行い、その機能を解明していくことを目的として設置されています。

¹H 共鳴周波数 950MHz と 800MHz の NMR 装置はともに、高感度測定用のクライオ・プローブを装備しています。800MHz の装置は、理研との連携協力として蛋白質研に移設されたものです。共同利用に供している他の NMR 装置などを含め詳細に関しては、WWW 上で公開していますので参照してください。（<http://nmrfacility.info/facility/utilization-device>）

2. 応募資格

国公立大学及び国公立研究機関、並びにこれに準ずる機関の研究者

3. 研究期間

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの期間

4. 応募方法

【応募書類】

- (1) 2020 年度 超高磁場 NMR 共同利用研究課題 申請書 兼 共同研究員承諾書
- (2) 2020 年度 超高磁場 NMR 共同利用研究課題 研究協力者承諾書
- (3) 遺伝子組換え実験従事者に係る誓約書

* (1) ～ (3) とともに指定様式あり。下記ホームページよりダウンロードして下さい。

蛋白質研究共同利用・共同研究拠点 HP <http://www.protein.osaka-u.ac.jp/kyoten>

* (2) (3) については、該当の場合のみ提出して下さい。詳細は下記「9. その他」を参照のこと。

【提出期限】

2019 年 12 月 2 日（月）〔必着〕

*ただし、緊急で実験を希望される場合には、提出期限以降でも受け付けることがありますので、下記「5. 研究内容等についての問い合わせ先」教員にご相談下さい。

【提出先】

大阪大学蛋白質研究所会計係（拠点プロジェクト班）

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 3-2

TEL: 06-6879-4323 E-mail: tanpakuken-kyoten@office.osaka-u.ac.jp

*「超高磁場 NMR 共同利用研究課題申請書在中」と朱書きし、簡易書留で送付して下さい。

5. 研究内容等についての問い合わせ先

大阪大学蛋白質研究所 蛋白質解析先端研究センターNMR 構造解析グループ

准教授 宮ノ入洋平 Tel : 06-6105-6078

E-mail : y-miyanoiri@protein.osaka-u.ac.jp, ha_nakanishi@protein.osaka-u.ac.jp

6. 採 否

蛋白質研究所専門委員会の議を経て所長が採否を決定し、2020 年 3 月初旬頃に申請者に通知します。

7. 研究成果報告

研究期間の終了後 1 ヶ月以内に、下記の書類を提出して下さい。

ご提出いただいた書類のうち、【2】については、2021 年度中に拠点ホームページにて公開予定です。

【1】2020 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業 (1) 研究成果報告書

【2】2020 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業 (2) 研究成果の概要

*上記の様式については、ホームページに掲載しております

8. 学術論文での本研究による成果の発表

本課題で得られた成果に基づいて学術論文として出版された場合は、本高磁場 NMR 装置を利用したことを(例)のように明記し、その別刷 1 部を提出して下さい。

なお、記載にあたっては、別添「拠点事業にかかる共同利用・共同研究による成果として発表される論文について」を参照願います。

9. その他

- ①上記 1. の設置目的に沿った課題を優先的に採択します。申請にあたっては、NMR 測定に向けてのサンプル調製、あるいは予備実験を開始していることが望まれます。なお、本 NMR 共同研究課題の申請以外に共同研究員の申請が採択されることによっても超高磁場 NMR 装置を利用できます。この場合には、共同研究受け入れ教員の下での装置利用となります。
- ②本研究課題が採択された場合、実験責任者は、大阪大学蛋白質研究所共同研究員になっていただきます。共同研究員として旅費の支給を希望される方は、申請書の該当する欄に記入して下さい。なお、旅費の支給は、原則として、研究課題 1 課題につき 1 年度あたり 4 回分とします。ただし、この場合の 1 回分とは 1 名が一回旅行する分の旅費をいい、全体として旅行者数×回数の積算が 4 を超えないことを条件とします。また、旅費の支給における回数は、近畿圏内からの日帰り出張の場合に限り、1 回分を 0.5 回として数えるものとします。
また、共同研究員用の宿泊施設(「春日丘ハウス」等)を利用することができます。
- ③実験責任者ならびに同一の所属機関の者が実験組織に加わることの承諾については、応募書類の(1)「2020 年度 超高磁場 NMR 共同利用研究課題 申請書 兼 共同研究員承諾書」に記載欄がありますので、必ず所属長の承諾を得て下さい。また、他の研究機関所属で実験組織に加わる者については、別途所属長承諾が必要となります。応募書類の(2)「2020 年度 超高磁場 NMR 共同利用研究課題 研究協力者承諾書」を必ず(1)とともに提出して下さい。
- ④研究課題が遺伝子組換え実験に相当する場合は、実験従事者全員について、所属機関の安全主任者による誓約書(応募書類の(3)「遺伝子組換え実験従事者に係る誓約書」)を提出して下さい。
- ⑤実験組織に学生(大学院生および学部学生)を含めることができます。その際、指導教員の承認を得る(応募書類の(1)「2020 年度 超高磁場 NMR 共同利用研究課題申請書 兼 共同研究員承諾書」に承諾の署名欄があります)とともに「学生教育研究災害傷害保険」等に参加して下さい。
- ⑥上記において、「学生の取り扱いについての誓約書」欄に署名された指導教員等が異動等になった場合は、新たな指導教員等の承認が必要となります。また、当初申請時には含んでいなかった学生を年度途中で追加する場合は、新たに指導教員等の承認が必要ですので、これらの事情が生じた際は、大阪大学蛋白質研究所会計係(拠点プロジェクト班)にお問い合わせ願います。
- ⑦研究組織に他の研究機関の学生を含む場合は、「研究協力者の承諾書」の下方にあります「学生の取り扱いについての誓約書」欄に指導教員等による記入・押印をお願いします。

拠点事業にかかる共同利用・共同研究による成果として発表される論文について

◆謝辞 Acknowledgement について◆

本拠点事業にかかる共同利用・共同研究による成果に基づいて論文を発表される場合は、その旨を以下の【例】のように明記して下さい。

(1) 共同研究員、国際共同研究、NMR 共同利用研究、クライオ電顕共同利用研究、客員フェロー

●共同研究員【例】

This work was performed in part under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, CR-○○-●●. ※○○は西暦年の下2桁 ●●は別添の部門・センター番号

● 国際共同研究【例】

This work was performed in part under the International Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, ICR-○○-●●.

●NMR 共同利用研究【例】

This work was performed in part using the NMR spectrometers with the ultra-high magnetic fields under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, NMRCR-○○-●●.

●クライオ電子顕微鏡共同利用研究【例】

This work was performed in part using the cryoelectron microscope under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University, CEMCR-○○-●●.

●客員フェロー【例】

This work was performed in part under the Collaborative Research Program as the Visiting Fellow of Institute for Protein Research, Osaka University, VFCR-○○-●●.

※文末の下線を付した箇所を下記ルールに従って適宜記入すること。

「事業名を示すアルファベット」 - 年度 - 部門・センター番号」

①

②

③

- ①共同研究員の場合は CR、国際共同研究の場合は ICR、NMR の場合は NMRCR、クライオ電顕の場合は CEMCR、
客員フェローの場合は VF CR と記入。(CR は Collaborative Research の略、I は International の略、CEM は
CryoElectron Microscope の略、VF は Visiting Fellow の略)
- ②西暦年の下 2 桁を記入。なお、この西暦年とは、原則として“共同研究を行った年”とするが、複数年に亘る
研究による成果(論文業績)についてはこの限りではなく、表記を著者に委ねる。
- ③蛋白質研究所の 4 部門・1 センターについて別途あらかじめ定めた番号*を記入。
*番号一覧については次頁に記載。

(2) ビームライン共同利用研究

●ビームライン共同利用研究【例】

This work was performed using a synchrotron beamline BL44XU at SPring-8 under the Collaborative Research Program of Institute for Protein Research, Osaka University. Diffraction data were collected at the Osaka University beamline BL44XU at SPring-8 (Harima, Japan) (Proposal No. 20〇〇AXXXX, 20〇〇BXXXX, and 20〇〇AXXXX). ※20〇〇の〇〇は西暦年の下2桁

※後半の文章にある 20〇〇AXXXX というのが半年ごとにつけられる SPring-8 課題番号
SPring-8 課題番号は、

西暦・期（AまたはB）・蛋白研ビーライン共同利用研究課題番号となっている。
また、成果に関わる実験に利用した課題番号の全てを記入すること。

* 番号一覧

番号	部門・センター	研究室、グループ
01	蛋白質化学研究部門 Division of Protein Chemistry	●蛋白質有機化学（北條裕信教授） Laboratory of Protein Organic Chemistry Prof. HOJO, Hironobu ●細胞システム（岡田眞里子教授） Laboratory of Cell Systems Prof. OKADA, Mariko ●蛋白質ナノ科学（原田慶恵教授） Laboratory of Nanobiology Prof. HARADA, Yoshie ●オルガネラバイオロジー（中井正人准教授） Laboratory of Organelle Biology Associate Prof. NAKAI, Masato
02	蛋白質構造生物学研究部門 Division of Protein Structural Biology	●蛋白質構造形成（後藤祐児教授） Laboratory of Protein Folding Prof. GOTO, Yuji ●機能構造計測学（藤原敏道教授） Laboratory of Molecular Biophysics Prof. FUJIWARA, Toshimichi ●蛋白質結晶学（栗栖源嗣教授） Laboratory of Protein Crystallography Prof. KURISU, Genji ●電子線構造生物学（加藤貴之教授） Laboratory of CryoEM Structural Biology Prof. KATO, Takayuki ●膜蛋白質化学（三間穰治准教授） Laboratory of Membrane Protein Chemistry Associate Prof. MIMA, Joji
03	蛋白質高次機能学研究部門 Division of Integrated Protein Functions	●分子発生学（古川貴久教授） Laboratory for Molecular and Developmental Biology: Prof. FURUKAWA, Takahisa ●ゲノムー染色体機能（篠原 彰教授） Laboratory of Genome and Chromosome Functions Prof. SHINOHARA, Akira ●高次脳機能学（疋田貴俊教授） Laboratory for Advanced Brain Functions Prof. HIKIDA, Takatoshi ●細胞核動態情報 Laboratory for Nuclear Dynamics ●体内環境統合蛋白質（奥村宣明准教授） Laboratory of Homeostatic Integration Associate Prof. OKUMURA, Nobuaki
04	多階層蛋白質統合研究部門 Division of Multiscale Integrative Protein Science	●多階層構造生命科学 Laboratory of Multiscale Structural Biology ●細胞核ネットワーク（加納純子准教授） Laboratory of Nuclear Network Associate Prof. KANO, Junko ●感染病態システム Laboratory for Infection Systems ●客員 PI Laboratory of Visiting Scientists

05	附属蛋白質解析先端研究センター Research Center for State-of-the-Art Functional Protein Analysis	●機能・発現プロテオミクス（高尾敏文教授） Laboratory of Protein Profiling and Functional Proteomics Prof. TAKAO, Toshifumi ●分子創製学（高木淳一教授） Laboratory of Protein Synthesis and Expression Prof. TAKAGI, Junichi Prof. NAKAGAWA, Atsushi ●先端計測（宮ノ入洋平准教授、山下栄樹准教授、 岩崎憲治客員教授） Laboratory of Advanced Protein Characterization Associate Prof. MIYANOIRI, Yohei Associate Prof. YAMASHITA, Eiki Visiting Prof. IWASAKI, Kenji ●超分子構造解析学（中川教史教授） Laboratory of Supramolecular Crystallography Prof. NAKAGAWA, Atsushi ●計算生物学 Laboratory of Computational Biology ●データベース開発（栗栖源嗣教授） Laboratory of Protein Databases Prof. KURISU, Genji ●産学・国際連携 Laboratory of Visiting Scientists
----	--	---

◆論文発表の報告について◆

拠点事業を継続して運営していくためには、共同利用・共同研究によって多くの研究成果があがっていることをアピールする必要があります。そのために、共同研究員の皆様が発表された論文業績をデータとして蓄積していきたいと考えております。

つきましては、今後発表される論文には、前述したように謝辞 Acknowledgement の明記をお願いしますとともに、論文発表された旨をご報告いただきますようお願い申し上げます。

【報告方法】

(1)研究期間中に発表(accepted、in press も含む)された論文業績について

研究期間終了時にご提出いただく「研究成果報告書」様式に、論文業績を記入する欄を設けております。そちらにご記入いただくことにより、ご報告下さい。なお、「研究成果報告書」の様式および提出期限等の詳細については、当該年度終了後の毎年4月初め頃にメール通知いたします。

(2)研究期間終了後に発表された論文業績について

毎年6月頃に、過去に本拠点事業に参画された共同研究員（研究代表者）全員にメールによる照会をかけさせていただきます。上記(1)により報告されなかった論文業績について、ご報告下さい。